

## 埼玉県機械工学系奨学生レポート 平成 25 年度 12 月 アメリカの”師走”

12月になり、フィンドレーの寒さは厳しさを増しています。-10℃を下回る日もあり、日本で生活しているときには体験したことのない極寒の環境下で生活しております。

日本における12月は師走と呼ばれるほど忙しい月とされていますが、アメリカでも同様に、期末テストやクリスマスなどのイベントが多数あり、忙しく過ごしました。今回はその中から、近所の家で行われたクリスマスパーティのこと、在デトロイト日本総領事館片山総領事によるフィンドレー大学とNBO(Nissin Brake Ohio)の視察について報告します。

### Bob さんのお宅で行われたクリスマスパーティ

アメリカの一般家庭のクリスマスの過ごし方を見てみたいと前々から思っていたところに、大学の近くに住む Bob さんからクリスマスパーティに招待され、参加させていただきました。Bob さんは我々フィンドレー大学の学生に非常に理解のある方で、ハロウインの時や週末のパーティなどに学生を快く招いてくれます。Bob さんのみならず、パーティでお会いした Bob さんの家族や親せきの皆様もとても気さくな方で非常に温かく楽しいクリスマスを過ごすことが出来ました。最も驚き、そして嬉しかったのが、クリスマスプレゼントを頂いたことです。クリスマスプレゼントは子供がもらうものと考えていたのですが、Bob さんは我々学生全員にもプレゼント用意して下さいました。プレゼントはすべて赤色の大きい靴下に入っていて、もらったらすぐに中身を見るのが習わらしく、私もすぐに中身を覗いてみました。中身はたくさんのお菓子、おもちゃ、工具のドライバーセット、ぬいぐるみ等が入っていました。日本では、クリスマスは友達や恋人と過ごす風潮がありますが、アメリカでは基本的に家族と過ごすことが一般的な習慣なようで、日本のお正月に近いような印象を受けました。一方で、アメリカには日本のような正月の文化はありません。1月1日は Happy New Year Day で NBO の工場も休暇になりますが、2日から NBO のインターンシップが始まります。



クリスマスパーティで頂いたプレゼントを開封している風景

## 片山総領事のフィンドレー大学、NBO 視察

在デトロイト日本総領事館の片山総領事がフィンドレー大学と NBO を視察されました。大学で行われたレセプションの後、皆川君と私のインターンシップ先である NBO にも足を運んでいただきました。片山総領事はとても気さくで話しやすく、またたくさんの海外勤務経験があり、とても勉強になるお話を聞くことができました。特に片山総領事と NBO の別府社長の対話の中で、昔の学生と現代の学生の海外勤務意欲の相違についての会話がとても印象的でした。片山総領事が「現在の若者は海外勤務に対する意欲・関心が低いと言われていますが、そういう風には感じますか。」と別府社長に尋ねたところ、「就職活動時の学生は皆海外勤務に興味があると言いますが、実際会社に入って数年経つとその気持ちが変わってきってしまう人が多い。」と言っていました。私自身、海外で働くチャンスがあれば働きたいと数年前から強く思っていたのですが、この言葉を聞いて少し考えさせられました。単純に現在海外で働きたいと思っていたとしても、大学や大学院を卒業し、企業に就職して数年勤務すれば、今とは生活環境が変わり、気持ちも変わることは自身の身でもあり得ることだと感じました。しかし、海外勤務の機会はいつ訪れるかわかりません。極端な例を出せば、10 年後に妻子を持っている状態で辞令を受け、海外勤務意欲が薄れた状態で海外勤務をしなければならないこともありえます。そんな時に「学生の頃は海外で働きたいという思いがあったから、遅くはなったけど、この機会に昔の夢をもう一度追い求めよう。」と考え、行動できるような柔軟性や気持ち余裕があるような社会人になりたいと思いました。そのためにも、アメリカにいる今のうちにできるだけ多くのことを経験し、より一層、自己形成に励みたいと思います。



NBO で撮影した片山総領事との集合写真

(左から私、皆川君、Fill(副社長)、片山総領事、別府社長、Tom(シニアマネージャー))